

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第3981027号
(P3981027)

(45) 発行日 平成19年9月26日(2007.9.26)

(24) 登録日 平成19年7月6日(2007.7.6)

(51) Int. Cl.		F I			
B 6 2 B	9/10	(2006.01)	B 6 2 B	9/10	A
B 6 2 B	9/24	(2006.01)	B 6 2 B	9/24	
A 4 7 C	7/02	(2006.01)	A 4 7 C	7/02	Z
A 4 7 D	1/00	(2006.01)	A 4 7 D	1/00	

請求項の数 8 (全 10 頁)

(21) 出願番号	特願2003-22542 (P2003-22542)	(73) 特許権者	390006231
(22) 出願日	平成15年1月30日(2003.1.30)		アップリカ育児研究会アップリカ▲葛▼西
(65) 公開番号	特開2004-231059 (P2004-231059A)		株式会社
(43) 公開日	平成16年8月19日(2004.8.19)		大阪府大阪市中央区島之内1丁目13-1
審査請求日	平成17年10月11日(2005.10.11)		3
		(74) 代理人	100091409
			弁理士 伊藤 英彦
		(74) 代理人	100096792
			弁理士 森下 八郎
		(74) 代理人	100091395
			弁理士 吉田 博由
		(72) 発明者	▲葛▼西 健造
			大阪市中央区東心斎橋1丁目14番9号

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 育児器具の座席ハンモック

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

座部と背もたれ部との間の角度が可変である育児器具に取り付けられて座席を形成する座席ハンモックであって、

座面部と、

使用状態において前記座面部の後端縁から上方に立ち上がって延びている背もたれ面部と、

使用状態において前記座面部の両側縁から上方に立ち上がって延びている1対の下方側面部とを備え、

前記各下方側面部は、前記座面部の側縁に接続された底部接続端と、育児器具の座部を形成する部材の後方端から上方に延びている上方延長フレーム部材に接続された上部接続端とを有し、

前記下方側面部は、前記背もたれ面部の背面に重なるように回り込んでこの背もたれ面部の両側縁から内方に離れた位置で背もたれ面部の背面に接続された背部接続端を有し、

育児器具の使用状態においては、前記下方側面部の底部接続端の前方位置と、下方側面部の底部接続端の後方位置と、下方側面部の上部接続端の位置とによって形成される三角形が動かない、育児器具の座席ハンモック。

【請求項2】

前記背もたれ面部は、使用状態においてその両側部から上方に立ち上がって延びている1対の上方側面部を含み、

10

20

前記下方側面部の背部接続端は、前記上方側面部の背面に重なるように回りこんでいる、請求項 1 に記載の育児器具の座席ハンモック。

【請求項 3】

前記下方側面部は、剛性のある芯材を含む、請求項 1 または 2 に記載の育児器具の座席ハンモック。

【請求項 4】

前記下方側面部の上部接続端は、育児器具の手摺部材の後方端に接続されて上方に延びている部材に接続されている、請求項 1 ～ 3 のいずれかに記載の育児器具の座席ハンモック。

【請求項 5】

前記背もたれ面部は、使用状態においてその両側部から上方に立ち上がって延びている 1 対の上方側面部を含み、

前記下方側面部の上部接続端は、前記上方側面部に接続されており、

前記上方側面部が、育児器具の座部を形成する部材の後方端から上方に延びている上方延長フレーム部材に接続されている、請求項 1 ～ 4 のいずれかに記載の育児器具の座席ハンモック。

【請求項 6】

前記育児器具の背もたれ部は、そのリクライニング角度が可変である、請求項 1 ～ 5 のいずれかに記載の育児器具の座席ハンモック。

【請求項 7】

前記育児器具は、前記背もたれ部と前記座部とを互いに近づけるように折りたたまれる、請求項 1 ～ 6 のいずれかに記載の育児器具の座席ハンモック。

【請求項 8】

前記育児器具は、乳母車である、請求項 1 ～ 7 のいずれかに記載の育児器具の座席ハンモック。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

この発明は、乳母車、チャイルドシート、ベビーラック等の育児器具の本体に取付けられて座席を形成する座席ハンモックに関し、特に、座部と背もたれ部との間の角度が可変である育児器具の座席ハンモックに関するものである。

【0002】

【従来の技術】

育児器具の座席ハンモックは、通常、布製の縫製生地によって作られており、子供の尻の下に位置する座面部と子供の背中の背後に位置する背もたれ面部とを連続的に形成している。育児器具の背もたれ部をリクライニング動作させるとき、座席ハンモックの背もたれ面部は、座面部との境界線を屈曲中心として傾斜動作を行なう。また、育児器具の座部と背もたれ部とを近づけるように折畳み動作を行なうときにも、座席ハンモックの背もたれ面部は、座面部との境界線を屈曲中心として傾斜動作を行なう。

【0003】

図 1 は、特開平 8 - 1 7 5 3 9 5 号公報に開示された乳母車を示している。図示する乳母車 1 は、椅子状の形態とベッド状の形態とに切換え可能なものであり、車体 2 と、この車体 2 に取付けられた座席ハンモック 3 とを備えている。乳母車 1 の背もたれ部はリクライニング動作を行なうことができる。

【0004】

乳母車の車体 2 は、座部を形成する部材の一つである 1 対の手摺部材 4 と、この手摺部材 4 の後方端に接続されて上方に延びている押棒 5 とを有する。座席ハンモック 2 は、車体 2 の座面形成部材上にほぼ水平に延在する座面部 6 と、座面部 6 の後方端縁から上方に立ち上がって延びている背もたれ面部 7 とを有する。

【0005】

10

20

30

40

50

図2は、特開平9-86417号公報に開示された乳母車を示している。図示する乳母車10は、車体11と、座席ハンモック12とを備える。座席ハンモック12は、車体11の座席形成部材上にほぼ水平に延在する座面部14と、この座面部14の後方端縁から立ち上がって延びている背もたれ面部13とを有する。乳母車車体11は、1対の手摺部材15と、この手摺部材15の内側面に取付けられて手摺部材の下方に形成される隙間を覆う側板16とを備えている。

【0006】

【特許文献1】

特開平8-175395号公報

【0007】

10

【特許文献2】

特開平9-86417号公報

【0008】

【発明が解決しようとする課題】

図1に示した乳母車1の場合、座席ハンモックの座面部6の両側部上方、すなわち手摺部材4の下方に隙間があるので、座席に着座した子供が手を隙間内に入れたりするおそれがある。

【0009】

図2に示した乳母車10は、手摺部材15の内側面に側板16を有しているので、上記の問題点をある程度解消することができる。しかしながら、乳母車の車体11および座席ハンモック12に加えて、特別に側板16を備えなければならないので、部品点数が増加する。

20

【0010】

図3は、改良された座席ハンモック20を示している。図示する座席ハンモック20は、前述した座席ハンモックと同様に、座面部21と、背もたれ面部22とを備える。背もたれ面部22は、その両側部から上方に立ち上がって延びている1対の上方側面部22aを有する。

【0011】

図3の座席ハンモック20が前述の座席ハンモック3、12と異なっているのは、座面部21の両側縁から上方に立ち上がって延びている1対の下方側面部23を備えている点である。各下方側面部23の下端縁と座面部21の側縁とは接続線24で縫合されている。また、各下方側面部23の後端縁と各上方側面部22aの前端縁とは接続線25で縫合されている。

30

【0012】

図3の座席ハンモック20によれば、座席ハンモック自体が座面両側部の隙間を覆う下方側面部を有しているので、部品点数は増加しない。しかしながら、次のような問題点を指摘できる。

【0013】

座席ハンモック20は、柔らかい布製の縫製生地によって形成されている。当然のことながら、下方側面部23も柔らかい縫製生地によって作られる。椅子状の形態とベッド状の形態とに切換え可能な乳母車の場合、下方側面部23は、背もたれ面部22が最も後ろに倒されてベッド状の形態になったときに、皺のない状態で平らに延在するようにされる。そのため、乳母車の背もたれ部を起こして椅子状の形態にしたとき、柔らかい下方側面部23が内方に向かってV字状に屈曲して、子供に対してわずらわしさを与えるおそれがある。あるいは、柔らかい下方側面部23が外方に向かって膨出したり皺を作ったりして、乳母車車体のフレームに干渉し合うおそれがある。

40

【0014】

下方側面部23に硬さを与えるために、下方側面部23に芯材を取付けることが考えられる。その場合、背もたれ部を起こしたときに下方側面部23の外方への膨出は乳母車車体のフレームによってある程度阻止されるが、内方への動きを阻止することができない。そ

50

のため、椅子状の形態では、下方側面部 2 3 と乳母車車体の側面形成部材との間に隙間が形成されてしまい、安全性の面で好ましくない。

【0015】

この発明の目的は、部品点数を増やすことなく、常に育児器具本体の座部側面形成部材との間に隙間を形成しないようにして安全性を高めた座席ハンモックを提供することである。

【0016】

【課題を解決するための手段】

この発明に従った座席ハンモックは、座部と背もたれ部との間の角度が可変な育児器具に取り付けられて座席を形成するものである。ここで、座部と背もたれ部との間の角度が可変ということは、背もたれ部がリクライニング動作をすることを含むものである。あるいは、背もたれ部がリクライニング動作をしない育児器具であっても、折畳み動作時に座部と背もたれ部とが互いに近づくように動作することを含むものである。

10

【0017】

座席ハンモックは、座面部と、背もたれ面部と、下方側面部とを備える。背もたれ面部は、使用状態において座面部の後端縁から上方に立ち上がって延びる。下方側面部は、使用状態において座面部の両側縁から上方に立ち上がって延びる。各下方側面部は、座面部の側縁に接続された底部接続端と、育児器具の座部を形成する部材の後方端から上方に延びている上方延長フレーム部材に接続された上部接続端とを有する。

【0018】

20

上記の構成によれば、下方側面部の底部接続端および上部接続端の位置は、育児器具の使用状態においては常に一定の位置にあって動かない。具体的には、仮に育児器具の背もたれ部のリクライニング動作が行われても、下方側面部の底部接続端の前方位置（第1の固定点）と、下方側面部の底部接続端の後方位置（第2の固定点）と、下方側面部の上部接続端の位置（第3の固定点）とによって形成される三角形は動かないので、下方側面部の平面状態を安定に維持し、育児器具本体の座部側面形成部材との間に隙間を作らない。

【0019】

一つの実施形態では、下方側面部は、背もたれ面部の背面に重なるように回り込んでこの背もたれ面部の両側縁から内方に離れた位置で背もたれ面部の背面に接続された背部接続端を有する。このようにすれば、下方側面部の背部接続端を背もたれ面部の背面に重なるように回り込ませているので、背もたれ面部の前方への動きが、前述の3固定点によって維持された下方側面部の平面状態に影響することはない。

30

【0020】

一つの実施形態では、背もたれ面部は、使用状態においてその両側部から上方に立ち上がって延びている1対の上方側面部を含む。この場合、下方側面部の背部接続端は、上方側面部の背面に重なるように回り込む。

【0021】

下方側面部は、例えば、剛性のある芯材を含む。芯材を含むことにより、下方側面部の平面状態をより安定に保持することができる。また、育児器具の折畳み動作の際、芯材があることにより下方側面部の動きを一定かつ安定にすることができる。通常、座席ハンモックの下方側面部の外側には、育児器具の本体部分が存在しているので、育児器具の折畳み動作に伴って本体の上方延長フレーム部材と座部形成部材とが互いに近づくと、芯材付きの下方側面部は内側に向かって畳まれるようになる。

40

【0022】

育児器具が手摺部材を備えている場合、下方側面部の上部接続端は、例えば、手摺部材の後方端に接続されて上方に延びている部材に接続される。

【0023】

下方側面部の上部接続端は、育児器具本体の上方延長フレーム部材に直接接続されてもよいし、間接的に接続されてもよい。間接接続の例として、例えば、座席ハンモックの下方側面部の上部接続端を上方側面部に接続し、この上方側面部を上方延長フレーム部材に接

50

続するようにしてもよい。

【0024】

育児器具の背もたれ部は、例えば、そのリクライニング角度が可変である。あるいは、育児器具は、例えば、背もたれ部と座部とを互いに近づけるように折りたたまれる。育児器具として、乳母車、チャイルドシート、ベビーラック等を挙げることができる。

【0025】

【発明の実施の形態】

図4～図8を参照してこの発明の一実施形態を説明する。

【0026】

図示する座席ハンモック30は、布製の縫製生地によって作られており、乳母車に取付けられて座席を形成する。図6および図7に乳母車の車体の一部が示されている。乳母車は、リクライニング調節可能な背もたれ部を備えており、背もたれ部を最も後ろに倒すとベッド状の形態となる。また、乳母車は、その背もたれ部と座部とを互いに近づけるように折畳み動作を行なう。

10

【0027】

図4および図5に示すように、座席ハンモック30は、子供の尻の下に位置する座面部31と、子供の背中の背後に位置する背もたれ面部32と、1対の下方側面部33とを備える。背もたれ面部32は、乳母車を椅子状の形態で使用するとき、座面部31の後端縁から上方に立ち上がって延びる。1対の下方側面部33は、乳母車の使用状態において、座面部31の両側縁から上方に立ち上がって延びる。図4および図5に示す座席ハンモック30の展開状態では、座面部31、背もたれ面部32および1対の下方側面部33は、平面的に延在する。

20

【0028】

背もたれ面部32は、特に乳母車をベッド状の形態で使用するとき、その両側部から上方に立ち上がって延びる1対の上方側面部32aと、その上端縁から上方に立ち上がって延びるヘッドガード面部32bとを含む。各上方側面部32aの側端部分には止めボタン34が取付けられている。

【0029】

座席ハンモック30の各下方側面部33は、座面部31の側縁に接続された底部接続端33aと、背もたれ面部32の背面に重なるように回り込んでこの背もたれ面部32の両側縁から内方に離れた位置で背もたれ面部32の背面に接続された背部接続端33bと、上部接続端33cとを有する。上部接続端33cの先端部分には、止めボタン35が取付けられている。図8は、図5の線8-8に沿って見た模式的断面図であり、1対の下方側面部33の背部接続端33bの位置を明瞭に示している。

30

【0030】

図5から明らかなように、各下方側面部33の背面には、剛性の有る芯材36が取付けられている。

【0031】

図7に示すように、乳母車の車体は、座部を形成する部材の一つとして1対の手摺部材40を有する。各手摺部材40の後方端には、上下方向に延びている上方延長フレーム部材41が連結されている。図示した実施形態の場合、上方延長フレーム部材41は、乳母車の押棒を形成している。押棒を背面押しの位置と対面押しの位置とに切換え可能になっている乳母車の場合、上方延長フレーム部材41と押棒とは、別個に設けられる。

40

【0032】

図6および図7から明らかなように、座席ハンモック30の上方側面部32aは、乳母車の上方延長フレーム部材41に巻きつけて固定される。上方側面部32aの止めボタン34は、上方延長フレーム部材41に固定されている受金具に係合する。

【0033】

また、座席ハンモック30の下方側面部33の上部接続端33cは、上方延長フレーム部材41に巻きつけて固定される。下方側面部33cの止めボタン35は、上方延長フレー

50

ム部材４１に固定されている受金具に係合する。

【００３４】

乳母車車体の背もたれ部をリクライニング動作させても、手摺部材４０、上方延長フレーム部材４１および座面支え部材の車体構造要素の位置は変化しない。したがって、下方側面部３３の底部接続端３３ａの位置および上部接続端３３ｃの位置は、乳母車の使用状態においては、常に一定の位置にあって動かない。すなわち、下方側面部３３の底部接続端３３ａの前方位位置（第１固定点）と、下方側面部３３の底部接続端３３ａの後方位位置（第２固定点）と、下方側面部３３の上部接続端３３ｃの位置（第３固定点）とによって形成される三角形は動かないので、乳母車を椅子状の形態で使用する場合、ベッド状の形態で使用する場合、背もたれ部のリクライニング動作を行なう場合のいずれにおいても、下方側面部３３の平面状態を安定に維持することができる。

10

【００３５】

各下方側面部３３は芯材３６を有しているので、下方側面部３３の平面状態をより安定化させることができる。図６および図７に示すように、図示した実施形態では、乳母車車体の座部側面形成部材と座席ハンモック３０の下方側面部３３との間に隙間が形成されないため、安全性において優れたものとなる。下方側面部３３の背部接続端３３ｂは背もたれ面部３２の背面に重なるように回り込ませているので、リクライニング動作に伴って背もたれ面部３２が前方に移動しても、上記の３個定点によって維持された下方側面部３３の平面状態に影響しない。

【００３６】

20

図６および図７に示した乳母車の車体の場合、乳母車の折畳み動作に伴って、座面の前方部と上方延長フレーム部材４１とが互いに近づく。具体的には、図７において、座面の前方部は反時計方向に移動し、上方延長フレーム部材４１は時計方向に回転する。芯材３６を有する下方側面部３３の外側には、上方延長フレーム部材４１や、後輪を有する後脚等が存在しているので、下方側面部３３は、乳母車の折畳み動作に伴って、内側に向かって畳まれる。

【００３７】

図面を参照してこの発明の一実施形態を説明したが、上述し、かつ図示したものは例示的なものである。したがって、以上に説明した実施形態に対して、この発明と同一の範囲内において、あるいは均等の範囲内において種々の修正や変形を加えることが可能である。

30

以下に、そのいくつかを例示的に列挙して説明する。

【００３８】

（１）図示した実施形態では、下方側面部３３の上部接続端３３ｃを直接乳母車車体の上方延長フレーム部材４１に取付けていた。変形例として、下方側面部３３の上部接続端を間接的に上方延長フレーム部材に取付けるようにしても良い。例えば、下方側面部の上部接続端を上方側面部に接続し、この上方側面部を上方延長フレーム部材に接続するようにしても良い。この場合であっても、下方側面部の上部接続端の位置は、乳母車の使用中、一定であって動かない。

【００３９】

（２）図示した実施形態では、座席ハンモックの背もたれ面部は上方側面部を有していたが、上方側面部を有さない背もたれ面部もあり得る。

40

【００４０】

（３）下方側面部の芯材を省略することも可能である。

【００４１】

（４）育児器具として、乳母車以外に、チャイルドシート、ベビーラックなどにも適用可能である。要するに、座部と背もたれ部との間の角度が可変な育児器具に対して、この発明を適用できる。

【図面の簡単な説明】

【図１】 特開平８－１７５３９５号公報に開示された乳母車を示す斜視図である。

【図２】 特開平９－８６４１７号公報に開示された乳母車を示す斜視図である。

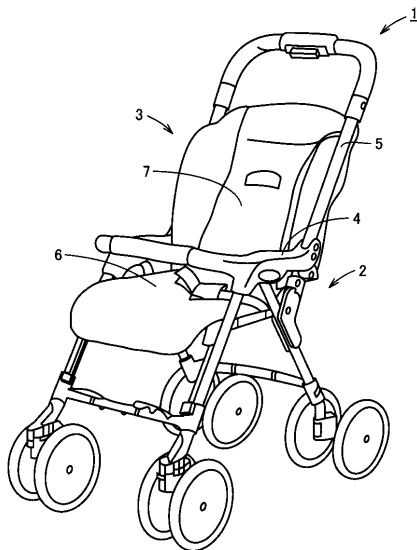
50

- 【図 3】 下方側面部を有する座席ハンモックの一例を示す斜視図である。
 【図 4】 この発明の一実施形態の正面図である。
 【図 5】 図 4 に示した座席ハンモックの背面図である。
 【図 6】 図 4 に示した座席ハンモックの使用状態を示す斜視図である。
 【図 7】 図 6 に示す部分を後部側方から見た斜視図である。
 【図 8】 図 5 の線 8－8 に沿って見た模式的断面図である。

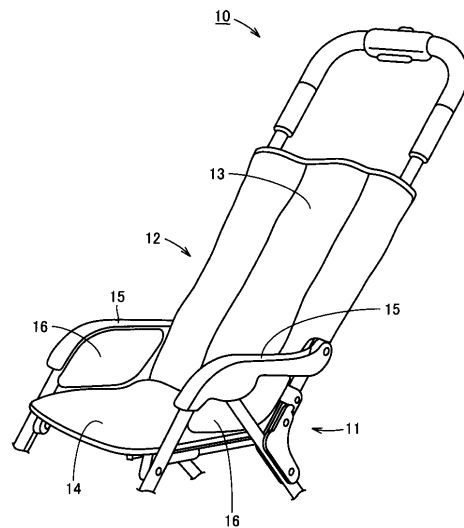
【符号の説明】

30 座席ハンモック、31 座面部、32 背もたれ面部、32a 上方側面部、32b ヘッドガード面部、33 下方側面部、33a 底部接続端、33b 背部接続端、33c 上部接続端、34 止めボタン、35 止めボタン、36 芯材、40 手摺部材、41 上方延長フレーム部材。

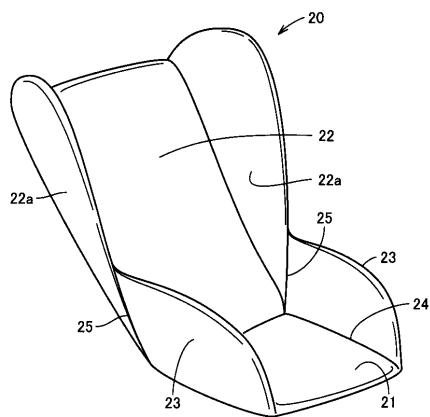
【図 1】



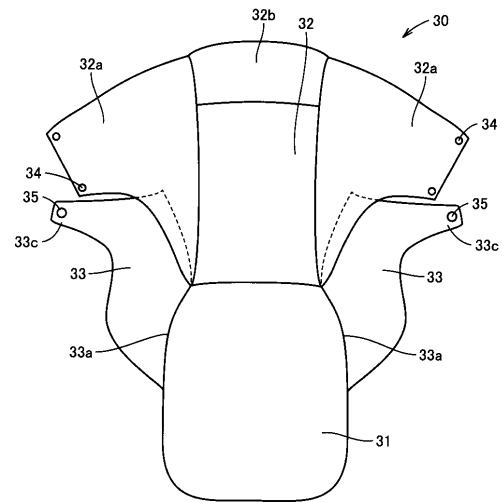
【図 2】



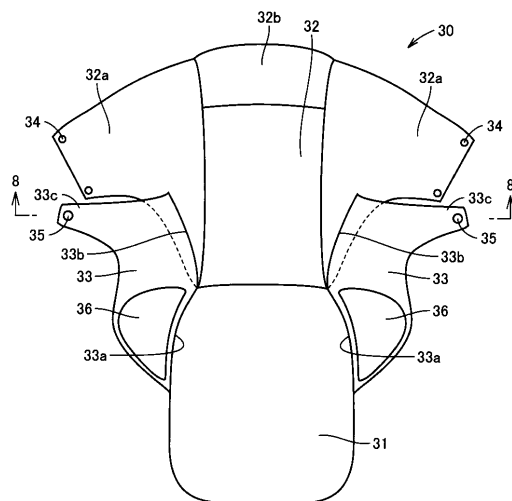
【図 3】



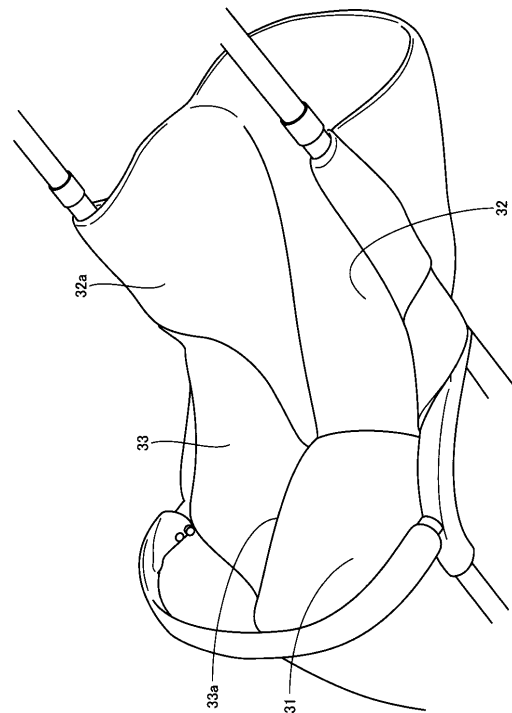
【図 4】



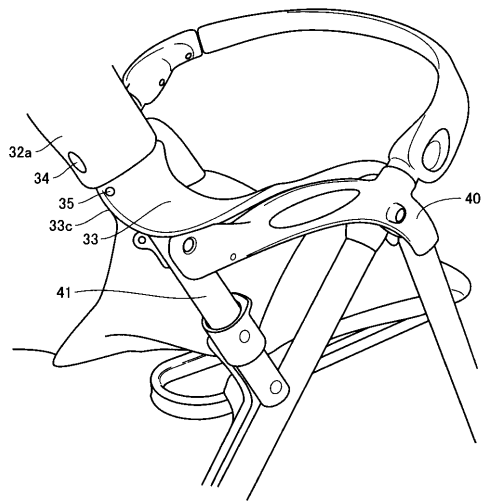
【図 5】



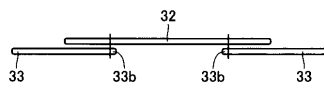
【図 6】



【図 7】



【図 8】



フロントページの続き

(72)発明者 大西 伊知朗
大阪市中央区島之内1丁目13番13号 アプリカ▲葛▼西株式会社内

審査官 早野 公恵

(56)参考文献 特開平11-091587 (JP, A)
実開昭54-093960 (JP, U)
実公昭41-022810 (JP, Y1)
特開平04-154477 (JP, A)
実公平05-034295 (JP, Y2)
実公平05-027337 (JP, Y2)
実公昭54-040589 (JP, Y2)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)
B62B 7/00 - 7/14
B62B 9/10 - 9/14
B62B 9/24
A47C 7/02
A47D 1/00